主日礼拝９月１８日（日）
＜永眠者記念礼拝＞
題　「主の憐みの導きの中で」
テキスト：創世記２８章１０節～１５節

皆さん、おはようございます。

本日は、まだまだコロナ禍の中ですが、秋季永眠者記念礼拝をこうして皆様と共に捧げることのできます幸いを神様に感謝いたしております。記念礼拝にお越しくださり心から感謝申し上げます。今年１０月洲本教会は教会創立１１９周年を迎えます。その長い歴史の中に礼拝堂にお写真が掲げられている方々をはじめとして、多くの天上の友の方々がおられます。それらの方々の上に、神さまの平安を心よりお祈りいたします。
皆様、様々な思い出が、よみがえって来られているのではないでしょうか。集われましたお一人おひとりの上に神さまの慰めを心よりお祈りいたします。

ところで、みなさまご存じのようにイギリスでは明日１９日イギリスでは７０年間の長きにわたって女王であったエリザベス女王の国葬が行われます。葬儀の行われるウエストミンスター寺院はキリスト教の施設ですが、以前お話ししたことがあるのですが、日本では、小学校で授業などの区切りをつける時になる音があります。
「ドミレソ・ドレミド・ミドレソ・ソレミド」。あの音の由来は、日本の明治時代に導入されたのですが、実はイギリスのウェストミンスター寺院の鐘の音だということです。そして、その音一つ一つが、人生の４つの意味を表しているのだということを昔パイプオルガニストの方に教えて頂き感動した覚えがあります。それは、「喜び、悲しみ、慈愛、そして希望」の４つの意味です。わたしの住んでいる修祷館（牧師館）のすぐ近くにある第３小学校から毎日この音が聞こえて来るのですが、その度慰めを与えられているのです。
エリザベス女王も、長い人生において「喜び、悲しみ、慈愛、そして希望」を感じ生きて神さまの元に召されたのだと思います。
さて、本日示された聖書のことばに聞きたいと願います。
先ほど読まれました本日の聖書の個所は、旧約聖書の記されている古代のイスラエルの族長の一人であるヤコブという人の見た夢についてです。
ヤコブという人物は、信仰の父と呼ばれるアブラハムの子イサクの子どもで、兄エソウと２人兄弟でした。古代イスラエル社会では父の遺産はすべて長男が

受け継ぐことが決まっていました。ところが次男であるヤコブは母の策略もあって長男の特権を奪ってしまうのです。そこで身の危険を感じたヤコブは、住む家・町を離れ１人旅にでるのです。その旅の途中での出来事がさき程司会者に読んで頂いた個所なのです。

「 11:とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあった石を一つ取って枕にして、その場所に横たわった。」

この時、ヤコブはどのような気持ちだったでしょうか。。人生の暗闇を経験するヤコブです。兄をだました、自分の醜さも、寂しさと孤独と死も感じたのではないでしょうか。讃美歌２１の４３４番の歌詞を思い出します。２節「さすらうまに　日は暮れ　石にまくら　するとも　夢にもなお　夢にもなお　主よ　みもとに近づかん」　ヤコブはこの夜不思議な夢を見たのです。

「12:すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。」　不思議な光景です。

「先端が天まで達する階段」が「階段」は「はしご」とも訳されます。
ちなみに現在の洲本教会の礼拝堂にあるステンドグラスはこの「ヤコブのはしご」をイメージした作品とお聞きしました。
聖書にはその階段は「地に向かって伸びていた」とあります。わたしは、この言葉から神さまの救いは天から地に来ると受けとめました。そして、「しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。」とあります。「上ったり下ったりしていた」という言葉に目がとまりました。普通であれば、御使たちは「下ったり上ったり」するのではないだろうかと思うのです。しかし、神さまは、この時、暗闇の中、絶望の底にいる眠れぬ夜を過ごしているヤコブの所、そのそばにおられたのです。

「13:見よ、主が傍らに立って言われた。『わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。
14:あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。』」

15:見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」ということです。

ちなみに、ヤコブの兄エソウとの和解は、この後、ヤコブが過ごした２０年の年月を経て実現します。感動的な場面が聖書の創世記３３節（P56）に記されています。

今日はこのように皆様と共に、お写真や名簿のお名前を確認しながら礼拝を捧げることが出来て感謝しています。
天に召されたお一人お一人の方々は、悩みや苦悩・苦難がおありだったことと思います。しかし、どんな中にあっても、この神さまの愛に包まれ人生を導かれて天に召され、神さまの平安の中に憩うておられることを信じます。
これから先の与えられた人生を生きるわたしたち、永眠された方々のことを心に覚え、神さまから与えられたイエスさまにあるつながり、神さまの憐みの導きの中で、お互いに大切にしながら生きて行きたいと願います。

主の平安を祈ります。